# 神奈川・北条時房（ほうじょうときふさ）・顕時（あきとき）邸跡

**1** 所在地　神奈川県鎌倉市雪ノ下一丁目

**2** 調査期間　一　一九八六年（昭61）五月～八月、二　一九八八年四月～七月、三　一九九六年（平8）四月～七月、四　一九九七年三月～六月

**3** 発掘機関　一・二　鎌倉市教育委員会、三　北条時房・顕時邸跡発掘調査団、四　鎌倉遺跡調査会

**4** 調査担当者　一　馬渕和雄、二　松尾宣方、三　宗臺秀明、四　齋木秀雄

**5** 遺跡の種類　居館跡

（横須賀）

**6** 遺跡の年代　古代～近代

**7** 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡地は、北条時房・顕時邸跡と称され、主として中世前期の遺構が検出されている。紹介する木簡もこの時期にあたると推測され

る。

顕時の屋敷については、金沢文庫所蔵『舞楽曼荼羅供私記』の奥書に「鎌倉赤橋辺」と記載がある（『金沢文庫古文書』識語篇二〇六四）。「赤橋」とは鶴岡八幡宮の赤橋と考えられている。遺跡地の若宮大路を挟んだ東側は北条泰時・時頼邸と推測されるため、八幡宮の南、若宮大路の西側一郭が時房・顕時邸に推定されている（貫達人「北條氏亭址考」『金沢文庫研究紀要』八、一九七一年）。これに対し秋山哲雄氏は、時房は宝戒寺小町邸に住んでいたとし、顕時の屋敷についても資料が乏しく、遺跡名についても再検討の必要性を説いている（秋山哲雄「御所と北条氏亭」鎌倉市教育委員会『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』一二〈第二分冊〉、一九九六年）。今回報告する四件の調査は、いずれもこの地を対象とするものである。

一の調査区は、北条時房・顕時邸跡の南端にあたる地点である。南辺のトレンチでは、遺跡地の南を走る東西道路の側溝と考えられる溝が検出され、この溝より木簡が出土した。出土層位の年代は一四世紀前半と報告されている。

二の調査区は、若宮大路に接する遺跡地のやや北よりの地点である。この調査では、若宮大路の西側溝と考えられる南北溝が検出されている。木簡の出土状況・年代などの詳細は未報告のため不明であるが、後述する内容からみて鎌倉時代のものである可能性が高いと思われる。

三の調査区は、若宮大路に面するやや南よりの地点である。古代より近世・近代に至るまでの生活面が検出された。そのうち中世に属するものは第二面と第三面である。その主な遺構としては若宮大路西側溝とそれに直交する東西道路、区画を分ける塀と掘立柱建物がある。木簡は、第二面に属する若宮大路西側溝より出土した。

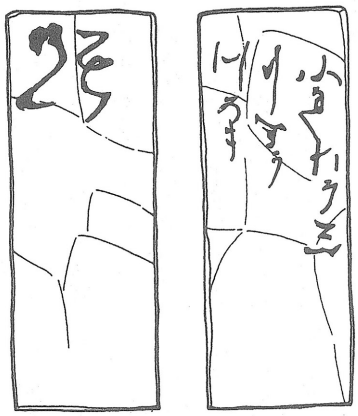
四の調査区は、遺跡地南東部にあたり、若宮大路に接する地点である。鎌倉時代初期から一六世紀後半までの遺構が検出されている。主な遺構には、木組みの護岸がなされた若宮大路西側溝とそれに直交する溝、掘立柱建物などがある。木簡は若宮大路西側溝から出土した。

## 8　木簡の釈文・内容

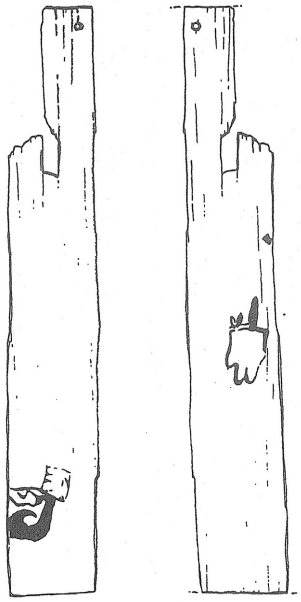
一　八六年度調査　　105×38×7　011

(1)　・「□□ラし〔いたレカ〕
　　に□□□ウ
　　けろれ　　」
　・「□　　」

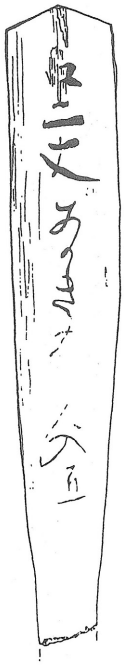
判読できない文字が多く、全体の文意は不明である。表面最終行二文字目は「そ」の可能性もある。なお、表面には、手斧によると思われる加工痕がある。



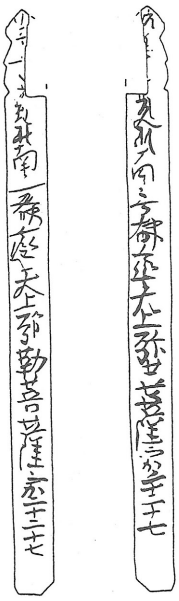
一(1)



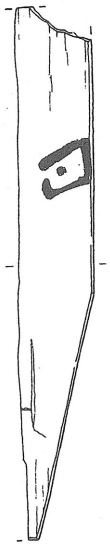
二(2)



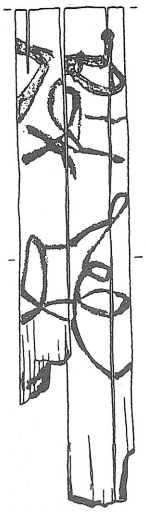
二(3)



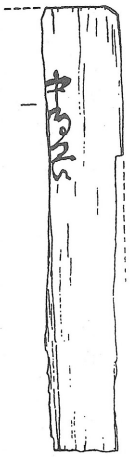
四(1)



三(2)



三(1)



二(1)

二　八八年度調査

(1)　「□」　(172)×(30)×1　081

(2)　・「○□」
　　・「○　□」　231×(32)×1　081

(3)　「□二丈　あかき□入道　(251)×41×3　051

(1)(2)は判読不能である。(2)については表裏ともに文字ではなく、絵あるいは筆慣らしの可能性もある。(3)については石井進氏の考察がある。石井氏によると「赤木の入道」あるいは「あかき□」入道と考えられ、赤木氏とすれば『吾妻鏡』延応元年（一二三九）五月二三日条にみえる赤木右衛門平忠光の一族の可能性があるとしている。「□二丈」は側溝工事を御家人あるいは御内人に請け負わせる際の単位と推測されている（石井進「鎌倉から出土した最初の木簡」『日本歴史』四四九、一九八五年。同「中世の木簡」『石井進著作集』一〇、岩波書店、二〇〇五年）。

三　九六年度調査

(1)　「□」　(199)×(42)×1.5　061

(2)　「□」　211×(30)×2　051

ともに判読不能である。(1)は折敷の底板である。筆慣らしの類であろうか。(2)は目を描いたもののようにもみえ、そうであれば呪符の可能性がある。

四　九七年度調査

(1)　・「(キャ)(カ)(ラ)(バ)(ア)(ユ)南無都率天上弥勒菩薩衆二十二十七」
　　・「(キャ)(カ)(ラ)(バ)(ア)(ユ)南無都率天上弥勒菩薩衆二十二十七」　232×17×1.5　061

五輪塔形の卒塔婆である。上段の五文字の梵字（キャ・カ・ラ・バ・ア）は東の発心門をあらわし、続く梵字は弥勒の種子（ユ）である。

**9**　関係文献

鎌倉市教育委員会『昭和六一年度発掘調査報告書』（鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書三、一九八七年）
同『平成元年度発掘調査報告書』（鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書六、一九八九年）
北条時房・顕時邸跡発掘調査団『北条時房・顕時邸跡　雪ノ下一丁目二七二番地点』（一九九七年）
鎌倉遺跡調査会『北条時房・顕時邸跡七』（鎌倉遺跡調査会調査報告一二、一九九九年）

（鈴木弘太）